



故 水野朝夫教授

総合政策学部の前学部長、水野朝夫教授（労働経済学）が十一月三十日午後四時五十八分、大腸がんで亡くなりました。六十五歳でした。葬儀・告別式は12月2日午前10時から府中市の多摩葬祭場で行われ、多数の方が参列されました。ここに鈴木康司学長の告別式での弔辞を掲載し、水野先生のご冥福をお祈りいたします。

弔 辞

中央大学総合政策学部教授水野朝夫先生の突然の訃報に接し、中央大学の教職員一同は、今深い悲しみのうちにあります。ここに謹んで先生の御霊前にお別れの言葉を申し上げます。

総合政策学部長在任中の本年九月、先生が体調を崩され、入院されて以来、必ずやご快癒され、お元気なお姿に再び接することができると信じておりました。ご家族の皆様への献身的な看護も虚しく不帰の客となられましたことは、まことに悔しく、哀惜の思いを禁じ得ません。

ご遺族の皆様のご悲嘆は、さぞかしと拝察申し上げます。

水野先生、先生は昭和三十五年から、四十年間にわたって、中央大学で教鞭をお執りになりました。先生

の情熱あふれる講義は、学生の間で評判でありました。先生は教育者として大変厳格でありましたが、その反面、常に学生の将来を考えた、愛情に満ちた指導を惜しまれなかつたことは、学生諸君に広く知られるところであります。また、先生は、教師として中央大学に尽くして下さいただけでなく、大学院経済学研究科委員長、総合政策研究科委員長、そして総合政策学部長として、長年にわたって中央大学における教育研究の充実発展のために多大なる貢献を果たされました。特に、総合政策学部創設に際しては、渾美先生とともに、新学部設立計画を精力的に推進し、見事に成し遂げてくださいました。先生が、学部設立理念の実現に情熱を傾け、献身的に取り組んでおられたお姿を、昨日のことのように思い出します。私も、中央大学のために先生の果たされた計り知れ

ぬほど大きなご貢献に心から感謝しております。

水野先生、先生は、故南 亮三郎先生に師事され、労働需要、労働供給、その相互作用としての賃金の水準と変動、失業行動、さらには労働の移動などの問題を理論的かつ実証的に研究されておりました。なかでも、企業間賃金構造の総合的解明を試みられ、昭和四十九年には、その研究成果である「賃金構造変動論」により博士号を取得されました。

その後においても、先生の研究業績は数多く、とりわけ、近年は、失業に関する研究分野で、学界の第一人者として活躍されておりました。平成四年には、その著書「日本の失業行動」に対して、労働関係図書優秀賞及び読売新聞社賞が授与されております。

さらには、先生は日本経済政策学会、日本人口学会、日本経済学会の

会員として多くの研究成果をあげ、また、日本経済政策学会では常務理事として、学会の発展に寄与されました。

先生は研究分野ばかりでなく、ご自身の研究を活かされて、労働省の雇用政策研究会委員や雇用審議会専門委員、経済企画庁経済審議会特別委員あるいは総務庁統計局雇用統計研究会委員を歴任されるなど、社会的な活躍もされておりました。

先生は奥ゆかしく、こうした第一級の学問的業績については、あまりお話になりませんでした。しかし、そのご活躍は、誰もが知るところであり、専門の異なる私どもにも、大きな励みとなっております。

水野先生、どうぞ安らかに、お眠りください。私たちも、先生のご遺志を受け継ぎ、大学の発展に尽くしたいと思っております。先生のご功績を心から称えますとともに、ご冥福を心よりお祈りして、惜別のことはいたします。

平成十一年十二月二日

中央大学学長 鈴木康司